

海ごみとは？

海域(海岸も含む)に散乱・堆積・漂流するごみ
陸域ごみの不法投棄と比べて
不特定多数者が排出者
偏りを持ちつつ広域的に問題が発生
処理困難なものが多い
支障が相対的・限定的
直接目に触れにくい

協働による回収・処理

行政

単一の行政区域のみでは対応困難

市民ボランティア

回収・処分

漂着ごみ 約1,200t ~ 16,000t

人目につく
海岸線で線的に発生
磨耗して微細化が進行
砂浜に埋没

(内訳)

- ・硬質プラスチック破片
- ・ビニール袋等の破片
- ・発泡スチロール破片
- ・タバコの吸殻
- ・カキ養殖用パイプ

漂流ごみ

人目につきにくい
海域を移動
一般市民による回収は困難

(内訳)

- 木・竹片 49.0%、海草類 10.4%、
- 野菜類 1.9%、瓶缶類 2.8%、
- 石油製品 35.0%、その他 0.9%

漂流ごみ回収船 (地方整備局)

回収・処分

流域

河川を通じた流入

流域住民

放置・投棄

レジャー客

1t/5人/日

漁業者

漁具の流出

回収・処分

- ・日生町での海底ごみ回収・処理
回収することで大幅削減
(12t / 日 5kg / 日)
- ・瀬戸内海環境美化推進事業

海底ごみ 約13,000t以上

人目につかない
面的な問題

(内訳)

- ・ポリ袋・食品トレー等
- ・空き缶
- ・金属ワイヤー
- ・布類

瀬戸内海

- ・景観の悪化
- ・海岸での人間活動を阻害
- ・海生生態系の破壊
- ・船舶への被害
- ・海水交換の抑制、食物や酸素の供給の阻害

- ・漁業環境の悪化
- ・魚網の破損
- ・魚網にかかるごみの除去による機会損失
2,000千円 / 年(推計)、
高齢化により回収も困難

遊漁船の回収

遊漁船

瀬戸内海 の 海ごみ問題

閉鎖性海域であり、海域内でごみが発生
日本海側と比較して、単位面積当たりの量が少ない
環境負荷低減一般の先行事例となりうる

瀬戸内海に特徴的な個別の海ごみ

- 発泡スチロール破片の漂着散乱
きわめて微小で、生態系や漁業環境に影響
- カキ養殖用パイプ
カキ養殖の作業過程で発生。瀬戸内海以外の海でも発見

今後の実態把握の主な課題

- ・超大型・重量ごみや微小な海底ごみの実態
- ・船舶等からの日常的な海洋への不法投棄の実態
- ・発生源ごとのシェア
- ・生態系や漁業環境に及ぼす影響の詳細
- ・災害廃棄物の発生実態
- ・底質悪化やヘドロとの関係
- ・大阪湾等も含めた実態